

第3期

二本松市子ども読書活動推進計画【概要版】

対象者

0歳～18歳の子どもとその保護者。子どもの読書活動の推進に関わる方々。

計画策定の趣旨

子ども達が読書の楽しさを実感し、生涯にわたる読書習慣が身に付くように、家庭・学校・地域が連携して読書活動を推進していくため、その具体的施策を明らかにします。第2期計画の終了に伴い、これまでの取組の見直しをし、第3期二本松市子ども読書活動推進計画を策定するものです。

課題

- 子どもの読書習慣の形成について
(メディア機器等による情報社会、読書にかかる時間の確保が困難)
- 学校図書館の利用促進(学校による図書館運営に差がある)
- 図書館の利用促進(子ども達の図書館利用が少ない)
- 読書活動に関する情報発信(「家読」の普及、様々な機関の連携)



基本方針1 「子どもが読書に親しむ習慣の育成」

子どもが生活の一部として読書習慣を身に付けるためには、乳幼児から切れ目なく、生活の様々な場面で本に触れることが重要です。家庭でも、幼稚園や保育所、学校でも、地域でも、本に触れ、読書を楽しみ、目的に応じて図書を活用できる場を提供します。

《推進の方策》

- (1) 読書に親しむ機会の提供
- (2) 読書習慣の定着
- (3) 図書館、公民館図書室に親しむ機会の推進

基本方針2 「子どもの読書環境の整備と充実」

子どもが読書活動を通して人生をより深く生きる力を身に付けていくためには、多くの図書との出会いが必要です。子どもが興味ある本を自由に選択し、自分の考えを深める図書と出会うことができるよう、利用しやすい読書環境を整えます。

《推進の方策》

- (1) 図書館・公民館図書室、幼稚園・保育所、学校等とのネットワークの強化
- (2) 利用しやすい図書館、図書室の整備と充実
- (3) 読書活動を支えるボランティアとの連携

基本方針3 「子どもの読書活動についての理解促進」

子どもの読書活動を推進していくためには、子どもを取り巻く家族、地域の人々の支援が重要です。子どもの読書活動の意義や必要性について、市民が理解と関心を深めていくための啓発を推進します。

《推進の方策》

- (1) 読書を広める啓発活動
- (2) 読書活動に対する理解の促進



うちどく

「家読」を推進します！

「家族読書」の略語で、「家族ふれあい読書」を意味します。

家族で本を読み感想を話し合うなど、読書習慣を共有することで、家族の絆づくりを図る運動です。

読書推進に止まらず、本をコミュニケーションツールとして相互理解を深め、家族の絆がいつそう深まることを目指します。

たとえば・・・ ○家族で一緒に本を読む(または同じ本を読む)

○読んだ本の感想を家族で話し合う

○家読の日・時間を決めて読む など

それぞれのご家庭に合った家読スタイルを！